

令和3年度 英語教育充実プラン 高知市立義務教育学校土佐山学舎		研究テーマ (英語教育推進方針)	学習指導要領を具現化した小学校外国語教育の在り方について ～言語活動を通じた主体的・対話的で深い学びの実現～		
年度当初の状況（4～5月調査を記載）		到達目標	年度末の到達目標達成状況（2月調査を記載）		
調査項目（意識調査の項目）			肯定的回答%	達成状況	考察
児童	①英語の授業で英語を使って発表することが楽しい。	1 児童意識調査の肯定的回答の割合の向上 ・全項目において、強い肯定群の割合を3%以上向上させることを目指す。 ①の強い肯定群 54%（4月） ②の強い肯定群 61%（4月） ③の強い肯定群 65%（4月）	91%		◆
	②英語の授業で、英語で読んだり書いたりすることが楽しい。（5・6年生のみ）		91%		
	③英語（外国語活動・外国語）の授業はよく分かる。		94%		
教員	④英語に対する苦手意識を感じていない。	2 教員意識調査の肯定的回答の割合の向上 ・④⑤⑥をいずれも20%以上の向上を目指す。	25%		◆
	⑤英語の会話力や語彙力を身に付けようとしている。		50%		
	⑥英語の授業における指導内容・指導方法について理解し、指導できている。		75%		
到達目標達成のための取組		取組計画		指標達成状況	
項目	成果指標	5～2月		達成状況	年度末評価
英語教育の推進体制の構築	◆校内研修体制においてメンター制が効果的に活用できたか。 ◆教員意識調査 ④⑤肯定群 20%以上向上 ◆児童意識調査 ③の強い肯定群 3%以上向上	◎自ら課題を見つけて研究を進め、PDCAサイクルを確立できるよう、メンター制を活用してグループで若年教員を支えながら研究を進める。 ・学校の実態を把握し、校内研修を計画的に実施する。主に月1回の拡大校内研修会を活用して研究を進める。 ・公開授業等を通して、研修の充実を図る。（7月・12月・2月） ◎公開授業の前に模擬授業研修会を実施し、単元づくりや授業力を高める方法について話し合う時間を設定すると共に、後期課程の教員も参加して模擬授業を行う。 ・校内研修に高知市教育委員会指導主事を招聘し、研修の活性化を図る。		◆	
学習指導要領に基づいた指導方法及び学習評価の工夫改善	◆「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の活用ができたか。 ◆教員意識調査 ⑥肯定群 20%以上向上 ◆児童意識調査 ②の強い肯定群 3%以上向上	◎「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定し、「何ができるようになるか」を児童と共有するとともに、目標の達成状況を把握する。 ◎英語で読んだり書いたりする力を付けるために、短時間学習「ぐんぐんタイム」を活用する。 ・外国語教育や学習指導要領にかかわる研修（授業づくり講座や授業改善研修等）に参加することで、学習指導要領に基づいた指導方法についての理解を図る。 ・講師招聘のもと、学習評価についての研修会を実施する。 ・校内で推進教員を中心とした模擬授業や打ち合わせ会を実施し、学校全体として授業改善を進める。		◆	
豊かな言語活動を育む場面の設定	◆姉妹校との遠隔授業や、CIRとの活動など、児童が実際に英語を使える場面や状況を設定できたか。 ◆児童意識調査 ①の強い肯定群 3%以上向上	◎オーストラリアの姉妹校との遠隔授業やCIRとの交流等を通して、外国の文化に触れるとともに、コミュニケーションのツールとして英語を使う体験を増やすようにする。 ◎短時間学習「ぐんぐんタイム」の時間を活用し、異学年交流などの場面を設定する。 ・English Corner（掲示板）を活用して、外国の文化に触れる機会を増やす。 ・「Kochi 使える広がる Fun!Fun!えいご」を授業で活用するだけでなく、短時間学習「ぐんぐんタイム」や家庭学習等での活用を工夫することで、児童の英語力向上を目指す。 ・学力向上部より、外国語だよりを発行し、地域や家庭に児童生徒の学習の様子を知らせる。		◆	